2016.1028　10月例会用資料

ASK歩く会
玉川上水(1)
羽村の堰⇒武蔵砂川駅

（玉川上水駅の1つ手前）

世話人(金作・原田・佐々木・大出・稲田)

開催日　　2016年9月21日(水) 曇り

出発　　新百合ヶ丘駅

　　午前　8時59分

解散　　午後　4時00分(玉川上水駅)

参加者　　22名

コース

新百合ヶ丘駅 ⇒登戸駅 ⇒立川駅⇒羽村駅 ⇒

禅林寺 ⇒東会館⇒羽村の堰(第1,2水門)⇒ 玉川兄弟

の像⇒第3水門(地下導水管：多摩湖へ)⇒旧水路跡

⇒(田村酒蔵)⇒宮本橋⇒清巌院橋⇒浜膳(昼食) ⇒

青梅橋 ⇒ 水喰土公園(開削工事跡) ⇒玉川上水緑道

⇒ 水衛所跡(川の立体交差) ⇒ 武蔵砂川駅 ⇒

玉川上水駅⇒多摩センター駅 ⇒ 新百合ヶ丘駅

玉川上水

幕府は１６５２年に、増え続ける人口に対応するため、多摩川の水を江戸に引き入れる壮大な計画を立てた。

工事は、１６５３年４月４日に着工し、わずか８か月後の１１月１５日（この年は閏年で６月が２度あるため８か月となる）、羽村取水口から四谷大木戸までの素掘り（崩れの補強を行わずに掘削すること）による自然流下方式の水路が完成。

・全長約４３キロメートル
・標高差はわずか約９２メートル

(参)江戸の人口

1590年	寒村
1603年	約 6万
1610年	約 15万
1632年	約 38万
1657年	約 57万
1693年	約 71万
1721年	約100万
1854年	約115万

羽村駅前出発

元気に出発！

禅林寺

臨済宗建長寺派寺院の禅林寺は、覚禅師を開山に迎えて1593年に創建、『大菩薩峠』の作者中里介山居士の菩提寺。

東会館

羽村市内にある23の地域集会施設（会館）の１つで、地域で行うサークル活動や会議などで気軽に使うことができる。

羽村の堰

台風16号が通過した直後で、多摩川の水量も大幅に増加

第１水門・第２水門

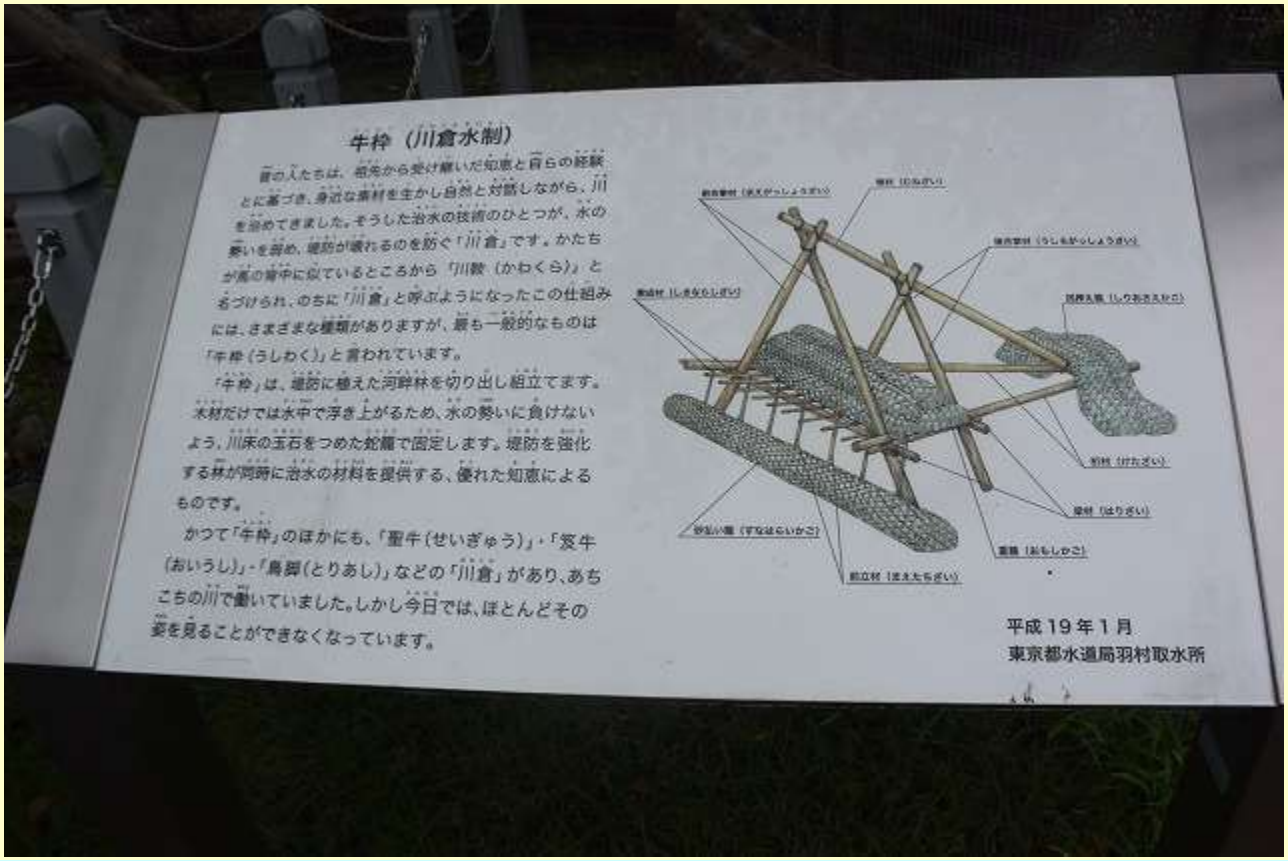
第１水門

第２水門

多摩川の原水の流れ

東京都の水がめ。8割が利根川、荒川水系で、2割が多摩川水系

牛枠



牛枠（川倉水制）

昔の人たちは、祖先から受け継いだ知恵と自らの経験とに基づき、身近な素材を生かし自然と対話しながら、川を治めてきました。そうした治水の技術のひとつが、水の勢いを弱め、堤防が壊れるのを防ぐ「川倉」です。かたちが亀の甲羅に似ているところから「川殼（かわくら）」と名づけられ、のちに「川倉」と呼ぶようになったこの仕組みには、さまざまな種類がありますが、最も一般的なものは「牛枠（うしわく）」と言われています。

「牛枠」は、堤防に植えた河畔林を切り出し組立てます。木材だけでは水中で浮き上がるため、水の勢いに負けないよう、川床の玉石をつめた蛇籠で固定します。堤防を強化する林が同時に治水の材料を提供する、優れた知恵によるものです。

かつて「牛枠」のほかにも、「聖牛（せいぎゅう）」・「笈牛（おいうし）」・「鳥脚（とりあし）」などの「川倉」があり、あちこちの川で働いていました。しかし今日では、ほとんどその姿を見ることができなくなっています。

·水制のための伝統的河川工法の一つ。四面体の木枠を作り、重りの蛇籠を載せて沈める。その形が牛に似ており、杭打ちのできない玉石や砂利の河川で使用。聖牛（せいぎゆう），猪子（いのこ）など多数の種類がある。

·武田信玄もかつて、増水時に川を流れる水の勢いを緩和させるために聖牛を使って、治水していた。聖牛の基礎部分は牛枠で構成される。

玉川兄弟像の前で

兄弟の偉業を偲ぶ・・・・・

第３水門

村山・山口貯水池(多摩湖)へ

玉川上水旧堀跡

田村酒造

文政5(1822)年、福生村の名主であった田村家9代目、勘次郎氏が創業した190年を超える歴史を持つ蔵元。

幸楽園・浜膳(昼食風景)

浜膳(各定食)

海の幸どんぶり定食

石焼き海鮮丼定食

石焼き牛たたき定食

ｸｰﾎﾟﾝでﾌｸﾞのから揚げをゲット(末永さん提供)

各1,290円(税抜き)

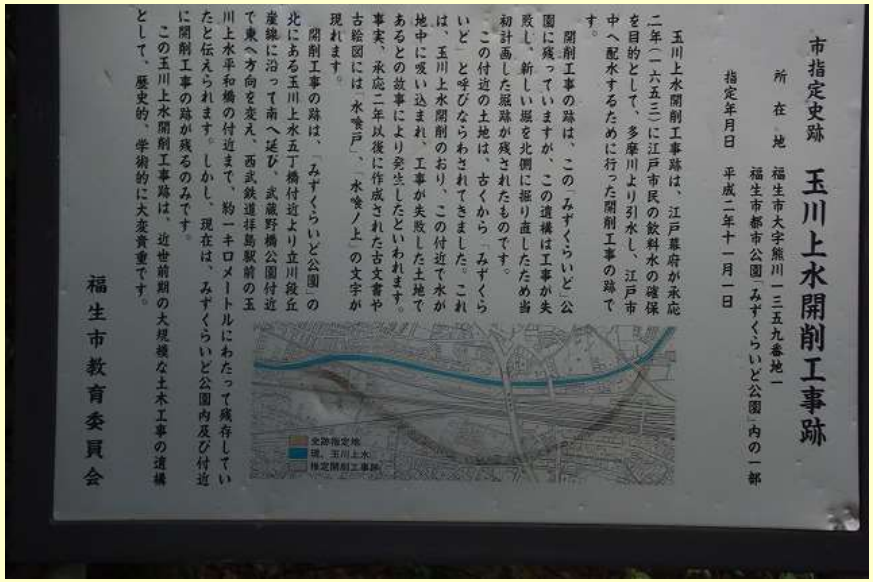
浜膳

昼食の後で

水喰土公園

水道開削工事で、この土地だけは水が土に吸い込まれてしまい、
上 水を引くことができず、「水喰土」と呼ばれたことに由来している

開削工事跡



市指定史跡　玉川上水開削工事跡

所　在　地　福生市大字熊川一三五九番地一
福生市都市公園「みずくらいど公園」内の一部

指定年月日　平成二年十一月一日

玉川上水開削工事跡は、江戸幕府が承応二年（一六五三）に江戸市民の飲料水の確保を目的として、多摩川より引水し、江戸市中へ配水するために行った開削工事の跡です。

開削工事の跡は、この「みずくらいど」公園に残っていますが、この遺構は工事が失敗し、新しい堀を北側に掘り直したため当初計画した堀跡が残されたものです。

この付近の土地は、古くから「みずくらいど」と呼びならわされてきました。これは、玉川上水開削のおり、この付近で水が地中に吸い込まれ、工事が失敗した土地であるとの故事により発生したといわれます。事実、承応二年以後に作成された古文書や古絵図には「水喰戸」、「水喰ノ上」の文字が現れます。

開削工事の跡は、「みずくらいど公園」の北にある玉川上水五丁橋付近より立川段丘崖線に沿って南へ延び、武蔵野橋公園付近で東へ方向を変え、西武鉄道拝島駅前の玉川上水平和橋の付近まで、約一キロメートルにわたって残存していたと伝えられます。しかし、現在は、みずくらいど公園内及び付近に開削工事の跡が残るのみです。

この玉川上水開削工事跡は、近世前期の大規模な土木工事の遺構として、歴史的、学術的に大変貴重です。

福生市教育委員会

今も、公園内に開削に失敗した跡がおおかたの原型をとどめて残っており、市の文化財に指定されている

玉川上水緑道

途中で玉川上水が暗渠になっている

砂川水衛所跡

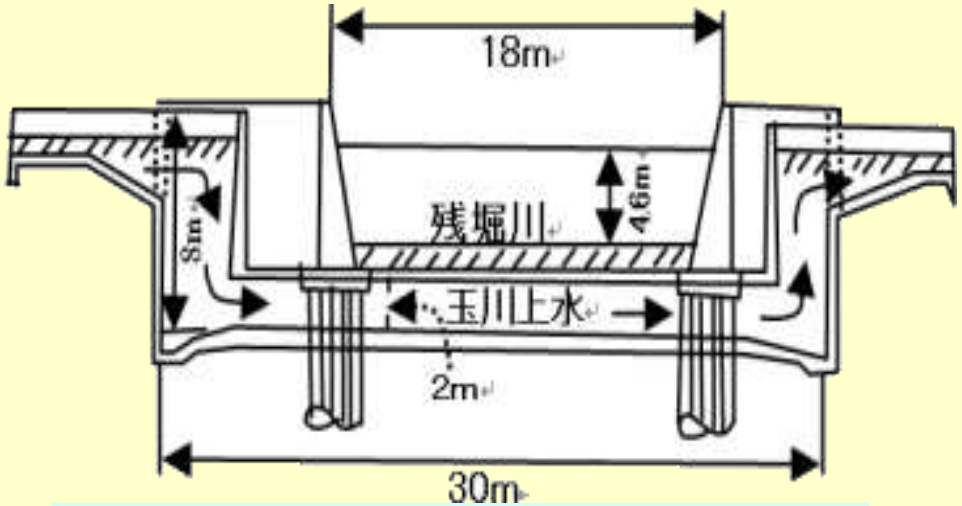
水衛所とは、綺麗な水を確保するために、水番人(みずばんにん)と呼ばれる人が常駐していた場所。

水番人は、玉川上水に流れる水量の確認や周辺の巡回、流れてくる落ち葉の掃除などを行っていた。

江戸時代には奉行の支配下におかれ、「水番所」と呼ばれていた。

水衛所跡(川の立体交差)

残堀川



サイフォンの原理で、玉川上水が、
残堀川の下をくぐっている

玉川上水が出てきたところ

途中風景

色々な風景が・・・・・・

途中風景

色々な風景が・・・・・・

武蔵砂川駅到着

今回は、西武拝島線の玉川上水駅の1つ手前駅の武蔵砂川駅で終了。

次回は、この駅から出発します。

懇親会

多摩センター駅のサイゼリアにて

ご静聴有難うございました

今後の予定は、

10月21日(金)　千葉市稲毛近郊散策

11月21日(月)　玉川上水(2)
武蔵砂川駅⇒一ツ橋学園駅

12月14日(水)　47士の歩んだ道(再)
吉良邸(両国) ⇒ 泉岳寺(高輪)

ですので、宜しくお願い致します。